

電子メールの利用制限について

近畿大学では、学内で利用するメールにセキュリティの制限をかけております。そのため、ウィルスを検知した場合や、制限を超えたメールが発見された場合には、ウィルスチェックシステムにより受信者に対して警告メールが送信される場合があります。

具体的には、以下の3つの場合に警告メールを受信することがあります。

- 1 . ウィルス検知時
- 2 . 分割メール検知時
- 3 . ファイル階層制限超過検知時

以下、警告メールの詳細と対処について、ご説明します。

ウイルス検知時のメッセージ

【説明】メールに添付されたファイルにウイルス等を検出した場合、その添付ファイルは削除され、「x_warningfromkudos.htm」(※xは数字の連番)という名称のファイルに置き換えられて送信されます。

【対処】送信者に心当たりがある場合は、送信者に確認を取り、必要に応じて添付ファイルをウイルスチェックした後再送するよう依頼をしてください。

送信者: 検知したメールの送信者
件名: 検知したメールの件名
添付ファイル名: 「x_warningfromkudos.htm」(※xは数字の連番)
本文: 検知したメールの本文

添付ファイルをダブルクリック

検知した以下の情報が表示されます。
【ファイル名】: ウィルスを検知したファイル名
【検知ウイルス名】: 検知したウイルス名

McAfee®
ウイルスを検知しました!

【ファイル名】: 'eicar.com'
【検知ウイルス名】: 'EICAR test file (test NOT a virus)'

添付ファイルは本HTMLファイルに置換されました。
置換前の添付ファイルの内容に関しては送信者に御確認ください。
ただし、送信元アドレスは詐称されている可能性があります。
ご注意ください。

お問い合わせについては、下記メールアドレスまでお願い致します。
kudos_support@kindai.ac.jp

詳細については、システム管理者に確認してください。

Copyright © 1993-2009 McAfee, Inc.
All Rights Reserved.
<http://www.mcafee.com>

分割メール検知時のメッセージ

【説明】学内で利用されるメールは、メールソフトでの分割送信を許可しておりません。

(※分割をすることによって添付ファイルのウイルスチェックが出来ないため)
大きいサイズの添付ファイルのついたメールをメールソフトの設定により分割メールとして送信した場合、メールウイルスチェックシステムより、下記のようなメールを送信します。

【対処】送信者に心当たりがある場合は、送信者に確認をとり、メールクライアントソフトによる分割設定を外した後、再送依頼をしてください。

送信者: 検知したメールの送信者
件名: (検知したメールの件名)(添付ファイル名)
(分割数)
本文: 右図の文章



ファイル階層制限超過メール検知時のメッセージ

【説明】フォルダの中にフォルダを入れる、もしくは圧縮ファイルをさらに圧縮するといった操作の繰り返しを100回以上繰り返したファイルが添付されていた場合、ファイルの内容は、「x_warningfromkudos.htm」（※xは数字の連番）という名称のファイルに置き換えられて送信されます。

【対処】送信者に心当たりがある場合は、送信者に確認をとり、フォルダもしくは圧縮の階層が100を超えない範囲でファイルを添付するようよう依頼をしてください。

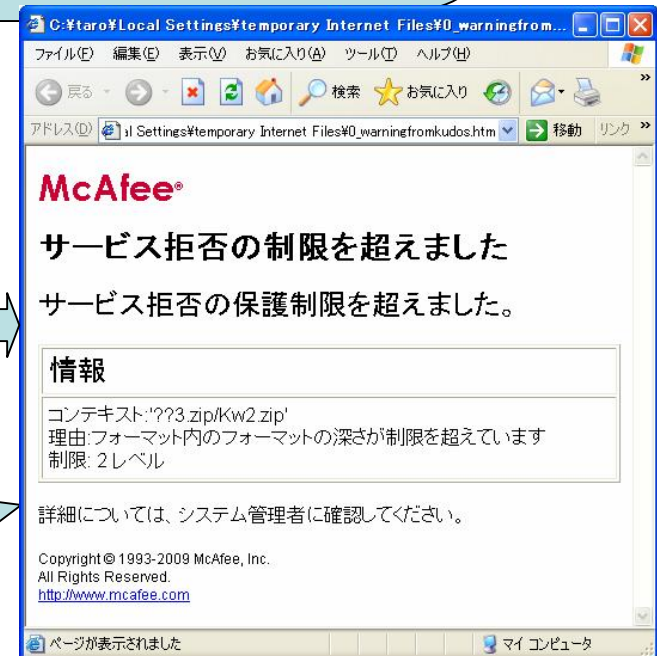


添付ファイルを
解凍

差出人: 検知したメールの送信者
件名: 検知したメールの件名
添付ファイル名: 検知した圧縮ファイル名
本文: 検知したメールの本文



フォルダ内は一つのファイルに置き換えられています



検知した以下の情報が表示されます。
コンテキスト: 制限を超えたファイル名 (文字化けする場合があります)
理由: 「フォーマット内のフォーマットの深さが制限を超えています。」(固定)
制限: 「2レベル」(固定)